

赤間地区「コミュニティ」だより

話・和・輪

第4号
平成17年4月1日

発行/ 赤間地区コミュニティ運営協議会広報委員会
TEL-FAX/ 0940-32-5640
印刷/ 企画 萌
TEL 0940-32-5662
<http://www.munakata.jp/wawawa>

赤間・マシノシヨウ 赤間一区・石丸・徳圃・隆徳寺・三郎丸団地
松美台・田久・栄町 緑町 一丁目・二丁目・三丁目・四丁目・五丁目・六丁目
山・草山・名殊・名地原・名地原五丁目

平成十九年三月 赤間地区コミュニティ・ センター開館に向けて 「コミセン」建設計画、順調に進む

二年後の平成十九年三月開館に向けて、赤間地区「コミュニティ・センター」(コミセン)の建設計画は順調に進められています。

まず、平成十六年度は、住民約五十名によるワークシヨップを開催し、「コミセン」の建設構想の検討を行いました。ワークシヨップは昨年九月から十二月にかけて全六回開き、みんなで見解を出し合い、構想をまとめていきました。

(ワークシヨップについては、事務局だより「ふれ愛通信」二号〜六号で詳しく掲載しています。二月の運営委員会では基本計画案を発表しました。

また、建設予定地も決定され、建設予定地は住民の希望する赤間二丁目付近と決まりました。以前から要望の出していた公園と隣接する土地に建設されます。今後、運営委員会で検討を行い、実施設計を進めていく予定です。

平成十七年度は市による用地の買収と用地造成が始まり、建物の具体的な実施設計に入っています。

平成十八年度にはいよいよ「コミセン」の建設にとりかかり、平成十九年初めには建物が完成する予定となっています。

「コミセン」が開館するまでは、まだ二年間ありますが、「コミ

セン」ができて本格的に活動ができるようになるまでに「コミュニティ」の組織を整えていこうと役員会や運営委員会で検討を重ねています。

また、平成十六年度は、各部会を中心に活動・事業を行い、広報活動を充実させてきました。協議会が発足して初めて事業を行った部会が多く、試行錯誤の一年でしたが、「コミュニティ」運営協議会の取り組みを地域住民の方に伝えることができただけではありません。

平成十七年度も前年度の事業を進展させて、より良いまちづくりをしようとする事業を計画しています。

二年後に「コミセン」が開館する時には、赤間地区みんなのためのまちづくりがスムーズにスタートできるように今後、皆様のご協力・ご参加をよろしくお願いいたします。



▲『赤間地区コミュニティ・センター』完成予想図



平成十七年度から行政区長制度が変わります
行政区長⇩自治会長(区長)に
市広報配布等⇩市と自治会が委託契約

今まで各区の区長さんに対し、市は行政区長を委嘱して、市からの連絡調整、各区の要望事項のとりまとめ、その他の業務をお願いしてありました。区長さんは、地元の区長業務のほかには市の業務を委嘱され、それに関連していくつかの当ても重なり、大変多忙な役職となっておりました。この行政区長委嘱制度が、平成十七年度から廃止されます。現在、市内の十二地区にコミュニティ運営協議会が設立されております。

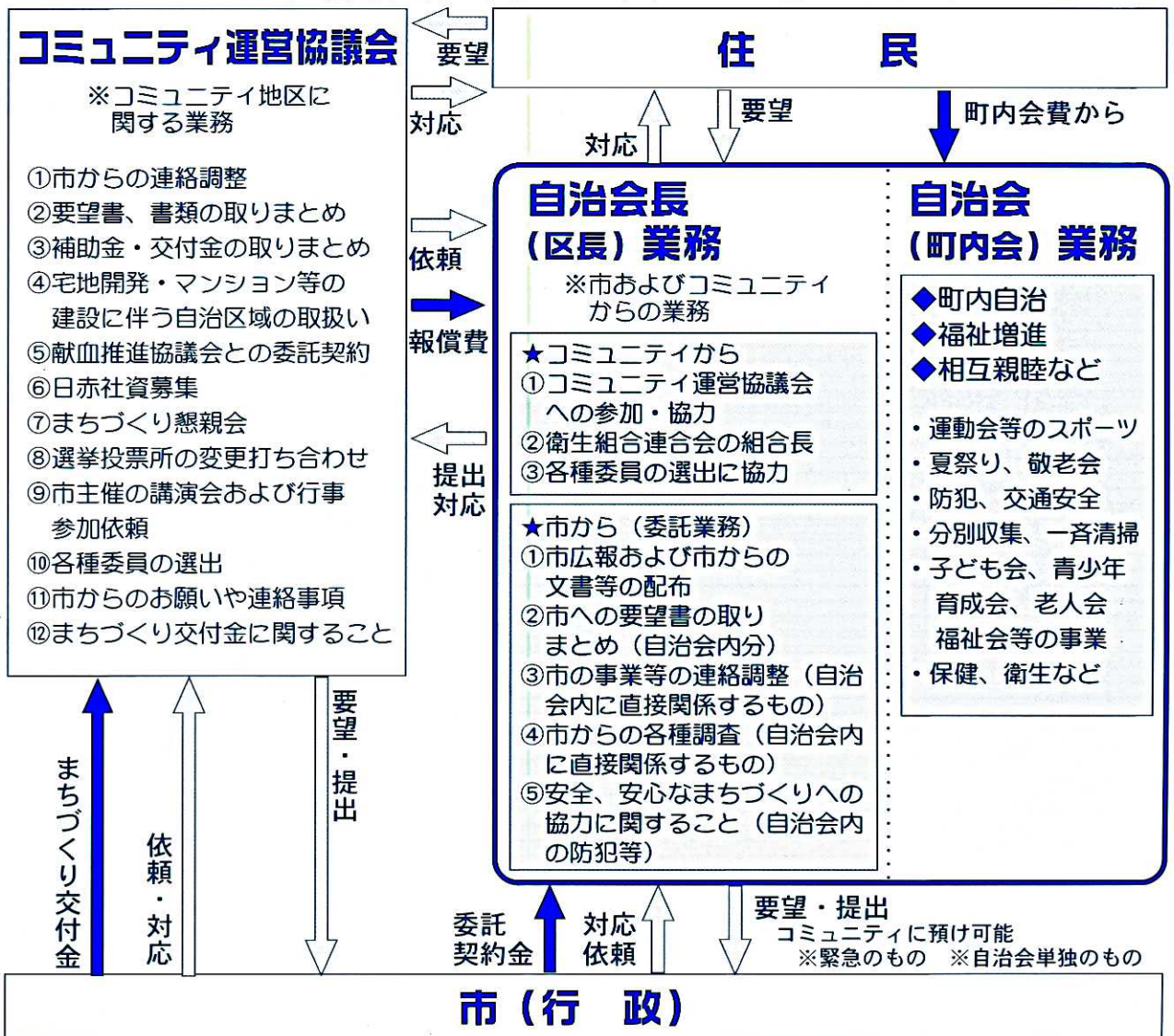
行政区長の廃止に伴い、別表「業務概要図」左上段のように、今までの委嘱業務の大部分をコミュニティ運営協議会が実施することになり、自治会(区)には市との委託契約により、市広報や文書の配布、自治会内の要望書のとりまとめや連絡調整、各種調査の協力などの業務が委託されることとなります。

赤間地区コミュニティ運営協議会には、区長会をはじめ十八団体が構成団体として、五つの部会の中で活動されていますが、区長会は役員会、運営委員会での役割はもろろんのこと、五部会全部会にかかわって、大変重要な役割を果たしていただいております。制度が変わっても、まだ未調整の部分も多く、思わぬことでトラブルとなる場合も考えられます。今後とも、市・コミュニティ・区長会が協議し連携を取りながら、適切に対応したいと考えております。赤間地区の皆様のご協力をお願いいたします。

業務概要図

⇨ 手続きの流れ ⇨ 委託料、交付金等お金の流れ

※委嘱制度を廃止するため、以下のような流れとなります



公民館活動

部会

十一月の城山登山も百十名の参加のもと、盛況のうちに終わりました。

十二月は、宗像市公民館連合の目玉行事として取り組んでいるお手玉遊びをひろめるために、部会では各自治公民館にお手玉二十個を配布し、自治公民館ごとに実技講習会を開きました。

二月十一日第一回お手玉遊び大会が宗像ユリックス大ホールで開催され、部会から八チームが参加し、二位に田久三位に葉山が入賞しました。二月二十日、勝屋酒造の酒蔵開放にあわせた赤間宿まつりにおいて、部会は、会場づくりから教育大生・留学生・商工会・区長会等の出店の応援や手伝いを行い、地域の活性化につとめました。

十六年度も地区の皆様には、公民館活動部会のさまざまな活動・行事にあたりまして多大なるご支援を賜りましたこと紙面をかりまして厚くお礼申しあげます。



お手玉遊び大会



青少年育成

部会

地域における青少年の実態がどうなっているのか。青少年のためにどんなことが行われているのか。

それに対する住民のニーズ・参加状況はどうなっているのか。部会構成の育成団体の活動実態をとらえた上、その中から問題を引き出し、その中から住民ぐるみの活動を組み立てていく準備の活動を年次ごとのテーマで推進しています。

残念ながら、住民の方々へのアピールは未知数です。義務的社会参加ではなく、自分的な当たり前の社会に創り上げていくという権利のもとに次代のふるさとを担う青少年のために環境整備を重点に種々プログラムを提案します。活動参加により、さまざまな人や考え方に会ってみませんか。

健康福祉

部会

平成十六年度は、二つの講演会、交流研修会、施設見学、親子で作る楽しい料理教室、昔の遊びテキスト作成、障害体験を実施しました。

昔の遊びテキストは、子どもから大人まで楽しめるものが完成しました。

障害体験は、関係者を含め三十名程の参加者で車椅子の使用と介助を二人一組で行いました。車椅子を自分の力で動かすことの難しさ、道路の構造上の問題を体験することができました。また、介助することの難しさも理解できたことと思います。

来年度は、今年度の事業を基本として次のように内容を充実していく予定です。他部会と連携を図った講演会の開催、作成したテキストを使用した出前講座などの世代交流事業の実施、基本と応用に分けた障害体験の実施を予定しています。



障害体験

環境整備

部会

「地域の美化運動」「防犯・防災」の二本の柱を軸に活動しました。

美化運動では、三月六日に予定していました「桜つつみ公園の清掃」が予想もしていなかった降雪のため中止しました。公園内では特に目立つごみ等が散乱している感じはしないのですが、あちらこちらにペットの糞が放置されています。ひとりひとりがちゃんと始末すればなんの問題もないことですが、部会内でも対策を検討中です。本年度は次の活動をしました。

- ① プランターを働く女性の家・赤間公民館に設置。
- ② 六月・九月に花苗の植え替え実施。
- ③ 講演会の開催 十月実施「高齢者を狙う悪徳商法」
- ④ 防犯冊子を作成し全戸に配布
- ⑤ 先進地視察 七月実施 甘木市 釣川清掃活動を含め次年度も継続します。皆様のご協力をお願いいたします。

地域づくり

部会

二月二十日は天気にも恵まれ、各種団体・コミュニティ各部会の皆様のご協力で「赤間宿まつり」を盛況の内に終わらせることができました。今年度は古い民家を利用したギャラリーの参加があり、皆様にもお楽しみいただけたと思います。

お世話いただいた皆様、遊びに来ていただいたいて賑いを盛り上げていただいた皆様、寒中ありがとうございました。「赤間地区歴史・観光ガイドブック」の編集発行事業は現在原稿も揃い、校正・レイアウトの作業を編集委員一同頑張っています。今暫くお待ちください。



赤間宿まつり・もちつき会場

自治区紹介

■ 三郎丸団地 ■

三郎丸と陵敵寺の中間に小高いまんじゅつの形をした高樹山（こうじゅさん）という丘陵がありました。この山が開発され、南向きの雛壇状で後方に城山、前方に釣川や赤間小学校を望む風光明媚な団地が完成。ここが三郎丸団地です。

三郎丸団地の開発は、昭和五十年代に福岡県労働者住宅生活協同組合によるもので、当初は五十世帯から始まり、今は二百十五世帯のミニ団地となりました。住民は多岐にわたる職業を持たれ、他方面に活躍をする方が多く、ホッと団地であり、JR教育大前駅や西鉄バス赤間営業所が近くにあるなど交通機関にも恵まれ、近隣には大型スーパーも多く、他の団地から羨ましがられているそうです。更に現在工事中の主要地方道「若宮・玄海線」の完成により団地内の交通量が少しは緩和されると思います。



三郎丸団地入口



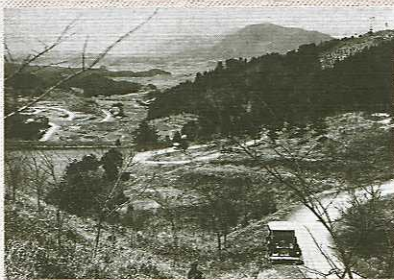
今はなき、高樹山

■ 富地原 ■

富地原の地名の由来は、古くは藤原と書かれています。藤原千代丸（千歳丸）という人物がこの地に移り住み、春日社を勧請し、その姓を地名にしたといわれています。

江戸期から明治二年まで藤原村の村名でしたが、その後富地原村に替わり、明治二十二年の町村制施行により、赤間村（町）の大字富地原となりました。

富地原区は純農村地帯で区民の九十％は農業を営んでいます。昭和五十年代後半に南部の丘陵地帯を福岡県住宅供給公社が用地買収し、大



昔の赤木峠（中央は城山）

規模宅地開発を行って広陵台団地に、更に「むなかたりサーチパーク・アステイ21」が完成するなど、随分様変わりしました。

富地原区には、神屋（こうや）に太郎坊社（現愛宕神社）が鎮座、春日社のほか祇園社が祭られています。また、僧祐尊の開基と伝えられ孝子正助翁の菩提寺である浄蓮寺（浄土真宗本願寺派）があります。

区の行事は、愛宕神社春季祭、合同初盆祭、区民体育祭、敬老会、愛宕神社秋季祭（子ども相撲大会）などを実施しています。公民館行事は、地区公民館連合会行事への参加のほか、子ども会行事のしめ飾り作り、廃品回収（年四回）、盆踊り大会、クリスマス会、お別れ遠足などを開催しております。

■ 名 残 ■

名残区は純農村地帯で、現在でも大部分が農業を営んでいます。名残区は全域市街化調整区域なので、宅地開発などの都市化に無縁で、静かな田園風景は昔のまま残っています。しかし、区内の中心を走る主要地方道「若宮・玄海線」の拡幅改良が進み、自由ヶ丘南や、広陵台・葉山がすぐ近くにあり、福岡行急行バスも通るなど、交通量が激しくなってきました。区内には、波寄（浪寄）神社や伊豆丸の石窟があります。

区の行事としては、四月春ごもり（祭典）、八月夏祭り、九月道路愛護デー、天満宮祭典、十月宮座、一月正月祭典。公民館行事として、四月に行う敬老会は数十年続いています。以上のほか、老人クラブの花見、敬老の日祝賀会、新年会、道路・公園の清掃などのボランティア活動が続いています。子ども会は、デイキャンプ、クリスマス会、豆まき、お別れ会のほか、廃品回収なども実施しています。



伊豆丸の石窟

編集後記

広報紙「話・和・輪」創刊から早一年、今回で第四号を発行することができました。コミュニケーション・センター建設完成図や、行政区長委嘱制度の見直し概要図など、広報委員もなかなか理解・説明がむずかしく、頭を悩ませていました。分かっているのは「私だけ？」とついつい思っています。

卒業・入学・就職・いろいろな役員交代など何かとあわただしいこの時期、合わせて花粉症と戦っている人も多いのではないのでしょうか。皆様どうかくれぐれもお身体に気をつけてください。

私も花粉症より

平成十六年度広報委員
占部玄海・井手新・仲尾等・古里百合子・小方美香・兎洞孝義・神山義信・吉田義男・清水睦美・實田照香

